

「神に打たれる羊飼い」

マルコ章 14 節 32~42 節

羊飼いがうたれると、羊はちります。イエスは弟子たちの目の前でたおされ、世界はいつとき、おきざりにされたように見えました。でも、その出来事は「神が沈黙した」しるではありません。むしろ逆で、神は私たちが逃げ出す夜のただ中にまで、ふみこんで来られた、というメッセージです。信仰が弱くなり、心がばらばらになってしまう時—それでも神は、こちらを見失ってはいません。散ってしまう私たちを知ったうえで、なお前に立つ羊飼いがいる。そこに、希望があります。

二つ目。羊飼いが神に打たれたということは、「苦しみを受ける側に神が立った」ということもあります。強く、正しく、立派である者だけが神に近いのではない。たおれ、あやまり、言葉をうしなう者に、イエスは立たれました。現代の私たちは、うまく生きているふりをします。上手・下手はあります。でも、羊飼いがうたられた世界では、弱さは失格ではありません。むしろ、そこが神と出会う場です。だから、今日は無理に立ち上がりなくていい。あなたがしゃがみ込んでいるその場所にも、羊飼いの影はちゃんと届いています。

私達は「何をしても同じだ」という考えが生まれますが、打たれた羊飼いに出会うと、逆のことが起こります。「それでも、あなたのところに行く」と言われてしまった人は、自由になります。でもその自由は、投げやりな自由ではありません。せめてうそはつくまい、という自由です。うまく生きられない自分を、うまく見せる必要がなくなる。主のめぐみは、罪が軽くなる道ではなく、罪を抱えたまま神の前に立つことをゆるされた重さだったのだと思います。

お知らせー71回年頭修養会が日程 2027年1月11日(月・休)~12日(火)・会場
北海道クリスチヤンセンター で開催されます。

日本キリスト教団 浦河教会

週 報

No. 43 2026年1月25日



〒057-0022 北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

伝道師 大槻茂勝

090-9716-1353

2026年1月25日 (No.43)

降誕節第5主日礼拝

司会 内村 直人・奏楽 松村 宣恵

前 奏

讃美歌 85 (2回)

祈 り

聖 書 マルコ 14章 32~42節

(新約聖書 92頁)

讃美歌 460

説 教 「神に打たれる羊 飼い」

讃美歌 91

献金と感謝の祈り

主の祈り 62

頌 荣 キリストの平和が (1, 5)

祝 祷 牧 師

報 告

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会

1月28日 (水) 19時より

〈コヘレトの言葉 7章 7~14節〉 旧約 1041頁

【次週の予定】

◇主日礼拝

2月1日 (日) 14時

聖書 マルコ 14章 43~50節

讃美歌 460・91

◇一緒に聖書を読み祈る会

2月4日 (水) 19時より

〈コヘレトの言葉 7章 15~22節〉 旧約 1042頁

【来週の礼拝 司会者を決めましょう】

①山本充枝 ②内村直人 ③半田かおる

④伊藤知之 ⑤山根耕平 ⑥岸澤恵美

⑦高崎 晋 ⑧早坂 潔 ⑨荻野 仁 ⑩和田智子

⑪吉田公子 ⑫大矢英明 ⑬岸上 浩

【集会統計】

集会名	出席者	献金
主日礼拝 (1月 18 日)	19名	6,377 円
クリスマス・イヴ		12,663 円
祈祷会 (1月 21 日)讃美歌	3名	471・300

・頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが
わたしたちのこころのすみ
すみにまで 行きわたりま
すように

5. キリストのゆるしが
わたしたちのこころのすみ
すみにまで 行きわたり
ますよう